学校名：県立中原支援学校

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（２月27実施）	総合評価（３月15日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	児童・生徒が主体的に学び行動し、対話的に学び高めあう力を育み、地域の資源等を活用した活動を取り入れ、社会に開かれた教育課程を編成する。	①児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業を実践する。 ②地域資源を活用した授業の実践や近隣の学校等との交流及び共同学習を継続・発展させる。	①授業改善に向けた工夫点や改善点など、校内研究で検討した内容を踏まえた指導案を作成し、教員一人１回研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践に繋げる。 ②地域の資源や外部講師を活用した授業を発展させると共に近隣の学校との交流の仕方を検討し、より充実できるようにする。	①教員一人１回研究授業を行い、研究で取り組んだ内容に基づいて授業を行うことができたか。また児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」が実現できたか。 ②地域の資源等を活用した授業を実践することができたか。また新しい形での近隣の学校等との交流を行うことができたか。	①一人１回の研究授業の実施率は 96.6%（令和４年度 63.7%）。可能な限り、お互いに研究授業を参観しあい、「主体的・対話的で深い学び」の視点で協議・助言等を行った。 ②５月以降、地域の小・中・高等学校と対面での交流ができた。また、外部講師を活用した授業を実施することで、児童生徒はさまざまな経験をすることができた。	①「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした３年間の研究を今後どのように授業に生かすか、検討する必要がある。 ②地域の学校等の交流は、充実をめざして内容をさらに検討する必要がある。また校内での児童生徒同士の交流の広がりを求める意見があるので、検討していく。	①評価方法として、どのような力が身についたか、具体的に示せると良い。 〈保護者アンケート〉 「わかりやすい授業」 肯定的な意見　90.7% 「授業の工夫」 肯定的な意見　87.9% ②地域へ向けての情報発信の方法も工夫してほしい。 〈保護者アンケート〉 「地域との連携」 肯定的な意見　70.1%	①公開授業研究会では、校内外の参加者との協議や講師からの助言で、教員の学びも深めることができた。３年間の研究の成果もあり、授業改善に繋がった。 ②コロナ禍の間できなかった対面での交流が実現できたことで一定の成果があった。外部講師を活用した授業も定着してきている。	①次年度から４年間にわたるテーマを設定して研究を進めていくが、「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の視点として取り入れる。 ②地域資源の活用については、まだ十分とはいえないという反省もあるので、地域の学校等に引き続き働きかけ、検討していく。また校内では、部門を超えた交流を計画的に行っていく。
2	児童・生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた専門性の高い指導を行うと共に校内指導体制をさらに整備する。	①児童・生徒の一人ひとりのニーズを把握し、指導・支援の充実に向けて校内で組織的に取り組む。 ②児童・生徒の実態に応じて、ICT 機器を活用し、教育内容の充実を図る。	①校内の支援体制を整理し、校内外支援担当と「学部コーディネーター」が連携して、ケース会の実施や児童・生徒の指導・支援を行う。 ②「ICT プロジェクト」チームを中心に視線入力装置や「iPad」等の ICT 機器の活用を推進し、授業や日常生活の指導に取り入れる。	①ケース会や児童生徒の支援について、校内外支援担当等と連携して、組織的に取り組むことができたか。 ②視線入力装置や「iPad」を使用した指導方法についての研修会を実施することができたか。また児童・生徒の実態に応じて、ICT 機器を活用することができたか。	①校内外支援担当者が、担当以外の学年の状況について把握できるように情報交換フォルダを作成した。学部コーディネーターが学部研修会や学部の事例検討会を計画、実施することができた。 ②プロジェクトチームやＩＣＴ支援係で、研修会を実施することができた。授業の様々な場面で活用が広がってきている。	①情報交換フォルダの有効な活用までは至っていない。学部コーディネーターのケース会議での役割を明確にする。 ②児童・生徒の実態に応じた有効な活用までには至っていない。教員のＩＣＴに関する知識経験に差がある。教員のボトムアップを図る必要がある。	①外部関係機関との連携等組織的に関わっていけるように取り組んでいってほしい。 ②ＩＣＴ機器は、コミュニケーションツールとなる。画像・映像を見たり、調べたりという活用方法が学びに繋がる。視線入力装置等の機器が充実できるように働きかけることも必要である。 〈保護者アンケート〉 「ＩＣＴ活用の充実」 肯定的な意見　65.3% わからない　23.3%	①校内のケース会では、学級担任だけでなく専門職、養護教諭を含めたチームで検討することができた。 ②授業場面でのＩＣＴの活用については広がってきている。視線入力装置等の活用が必要な児童・生徒について取り組みが進んできた。	①外部機関等を交えたケース会の必要性が増えている。学部コーディネーターも積極的に携わり、ケース会の運営等を行う。 ②一人１台端末導入に向けて研修を行い、活用を広げていくとともに保護者等に活用状況について周知する。
3	進路指導・支援	個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。	①一人ひとりの発達段階に応じたキャリア教育が実践できるように保護者・各関係機関等と連携を取りながら進路指導・支援を進める。	①進路説明会等の実施方法、進路に関する情報提供の方法を工夫して保護者への理解啓発を図ると共に、個別面談等を通して本人、保護者、担任等で進路に関する内容を共有する。	①進路に関する保護者説明会や見学会への参加者を増やし、理解啓発をさせることができたか。また個別面談等で進路に関して保護者と十分に話し合いをすることができたか。	①保護者の情報提供の方法の一つとして、進路ガイドブックを改訂した。 〈教員アンケート〉 「進路に関する十分な話し合い」 肯定的な意見 84.4%	①進路ガイドブックの有効な活用方法を検討していくとともに、保護者参加の説明会や見学会の周知を強化する。	①企業、事業所も学校での進路指導、取組を知ることができるとよい。進路ガイドブックを活用して、進路先の業種やその業務に求められる人物像などの情報もあると、保護者にも伝わる。	①進路に関する保護者説明会や見学会の参加者を増やし、情報提供の充実に力を入れることができた。進路決定に向けては、事前に進路コーディネーターと担任が情報共有をし、保護者と面談をすることもできた。	①前年度より、保護者の肯定的な意見は増えているが、進路指導についてさらに充実を求める意見は多いので、引き続き取り組んでいく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 27 実施）	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			②児童・生徒が「キャリア・パスポート」を活用できるように全学部で取り組む。	②実際に児童・生徒が「キャリア・パスポート」を活用する中で、各学部で活用するための課題を整理し、改善していく。	②「キャリア・パスポート」を活用し、有効な指導をすることができたか。	②昨年度、課題があった学部もシートを作成したり、授業を設定して、「キャリア・パスポート」を作成したりすることができた。	②「キャリア・パスポート」の作成は進んだが、児童・生徒の指導に生かす方法等の検討が必要である。活用状況を確認し、整理する。	〈保護者アンケート〉 「児童生徒の実態に合った進路指導」 肯定的な意見 84.4%から (令和４年度 79.24%) 「進路に関する十分な話し合い」 肯定的な意見 87.6% (令和４年度 84.8%)	②有効な活用ができている学部もあり、教員の 63.9%が活用に向けて取組が進んだと評価している。児童生徒の自分自身の理解や、教員の児童生徒の理解に繋がったという成果もある。	③有効な活用が十分できている段階には至っていないので、引き続き取り組んでいく。
4	**地域等との協働**	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、共生社会の実現のために地域と連携した活動を展開する。	①地域に本校の持つ資源を発信し、地域のセンター的機能としての役割を果たす。 ②「地域に開かれた学校」を意識し、地域、保護者へ適時情報発信を行う。	①教材データベースを作成しＨＰで情報を発信したり、本校の地域支援の内容について近隣の学校等に周知したりする。 ②定期的に情報を更新したり、内容を見直したりして、学校への理解を促進するためのＨＰや「Twitter」の充実を図る。	①教材データ等の情報をＨＰで発信することができたか。地域支援のパンフレット等で本校のセンター的機能について地域へ発信していくことができたか。 ②ＨＰや「Twitter」で有効な情報が発信されたか。	①教材教具等のデータをまとめ、整理することができた。昨年度までに集めたデータは 11 月にホームページに掲載することができた。センター的機能については、機会あるごとに発信した。 ②年度途中から「Ｘ(旧 Twitter)」の活用を行わなかったが、定期的に学校便りや学年通信の発行ができた。	①教材データの収集及び活用の周知については課題があった。データの活用の方法やホームページにアップした後の周知の方法を検討していく。 ②「Twitter」から「Ｘ」に変更になったことや校内の手続きで時間を要することから即時に掲載することが難しくなった。情報発信の方法を検討する必要がある。	②どのような学校かわかると、地域住民も温かい目で見守り続けることができるので、発信を続けていってもらえると良い。 ②「Ｘ」以外に社協福祉協議会のコーディネーターに相談すると、学校行事の参加、交流等を発信してくれるので活用の一つとなる。 〈保護者アンケート〉 「十分な情報発信」 肯定的な意見 79.1% （令和４年度 85.6%）	①令和４年度までのデータに加え、令和５年度のデータを、３月にホームページに掲載することができた。センター的機能について機会あるごとに紹介し、活用を呼びかけることができた。 ②学校便りや学年通信を定期的に発行し、必要な情報を発信することができた。	①次年度からは教材教具展に出展された教材等をまとめ、ホームページに掲載する。また、活用が広がるように地域の学校等に紹介する。 ②情報発信について、頻度や内容の充実を求める意見が多い。個人情報等の確認を確実に行うとともにＨＰの充実を図ることで、有効な情報が発信できるようにする。
5	**学校管理** **学校運営**	保護者や地域から信頼・信用される安心安全な学校づくりを行う。	①教育環境の整備に取り組み、児童・生徒が安心安全な学校生活を送ることができるようにする。 ②風通しのよい職場づくりを促進し、事故不祥事の防止に努める。 ③児童・生徒の人権を尊重し、安心で居心地のよい学校生活になるようにする。	①耐震化工事に伴う教育環境の変化の中で、教育活動における動線等の工夫等を行う。 ②連絡・報告・相談等の意識を高め、「ヒヤリハット」等の報告等を全職員で共有し、事故・不祥事防止に向けた啓発を継続して行う。 ③人権尊重を推進する一つとして「さん」付け呼称を徹底する。	①安心安全な環境を保持することができたか。 ②事故・不祥事等を防ぐことができたか。 ③「さん」付け呼称を確実に行うことができたか。	①他学部と情報共有を行いながら安全に留意して教育活動を行った。児童生徒が安全に活動できるように導線を工夫した。 ②学年リーダー会や学部でのアンケート等で情報共有や改善を行い、「ヒヤリハット」等の防止と対応策を話し合うことができた。 ③朝の打ち合わせや学部会で呼びかけることで、成果があった。 〈教員アンケート〉 肯定的な意見 95.1%	①物品については、整理整頓を心掛ける必要がある。定期的な安全点検と物品の整理を行う。 ②継続的に取り組み、事故不祥事が起こらないようにする必要がある。 ③学部により達成度に若干、差がある。介助員等へも呼びかけを行ったが、徹底されていないので引き続き取り組む。	①地域から苦情もなく無事に工事が終わってよかった。 〈保護者アンケート〉 「施設設備の安全」 肯定的な意見 76.9% ②ヒヤリハットは数が減ればよいということではなく、多く出して共有していくことも大切なので引き続き取り組んでいってほしい。不祥事防止のために、４月当初の話を疎かにしないことが大事である。 ③〈保護者アンケート〉 肯定的な意見 92.6%	①耐震化工事に伴うスクールバスの運行や引っ越し後の教室等環境整備について、十分検討し、安全な環境を保持することができた。 ②迅速な報告と情報共有をし、研修を行うことで、事故・不祥事が起こらないように取り組めた。 ③各学部で呼びかけ、会議で達成状況を確認することで、教員等には概ね定着した。	①学校の環境整備については、今後も学部と担当の分掌グループ等が連携して安全確認等を行っていく。 ②引き続き「ヒヤリハット」報告を迅速に行うと共に、定期的に研修を行い、職員の意識を高め、事故防止に繋げられるようにする。 ③学校全体で確実にできたという段階までは達成していないので、「さん」付け呼称や丁寧な言葉での対応について、機会を捉えて振り返りができるようにする。